

京都・鳥羽遺跡・鳥羽離宮跡

とば
とばりきゅう

殿の造営に着手し、南殿・北殿・馬場殿・泉殿・東殿・田中殿の順に造営した。

- 1 所在地 京都市伏見区中島鳥羽離宮町
- 2 調査期間 一九九八年（平10）五月
- 3 発掘機関 財京都市埋蔵文化財研究所
- 4 調査担当者 吉本健吾・尾藤徳行
- 5 遺跡の種類 集落跡・離宮跡

6 遺跡の年代 繩文時代～飛鳥時代、平安時代後期～中世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

京都市では、周知の遺跡の中でも工事面積が狭小な場合、工事に伴

い立会調査を行なつてゐる。今回の調査は、基礎工事面積一六〇m²の掘削工事に伴う立会調査

である。

鳥羽離宮跡は、平安京の

朱雀大路より南方に延びる作道が鴨川と交差するあたりで、現在の名神高速道路

の京都南インターチェンジの付近である。白河上皇は、



（京都西南部・京都東南部）

(1) □億万

$(72 \times 12 \times 0.5 / 081)$

木簡は、上下ともに欠損しているが、上端にのみ三文字の痕跡が認められた。その下には文字がなく文末であることが確認できた。柿経の一部と思われ、「妙法蓮華經第一卷序品第一」の八二行目に「教諸菩薩 無數億萬」とある。

なお、釈読は井上満郎氏、西山良平氏、吉野秋一氏による。

9 関係文献

京都市文化市民局『京都市内遺跡立会調査概報』平成一〇年度
（一九九九年）
（尾藤徳行）



京都・大藪遺跡

所在地 京都市南区久世殿城町

調査期間 一九九八年度調査 一九九八年（平10）七月～

九九年四月

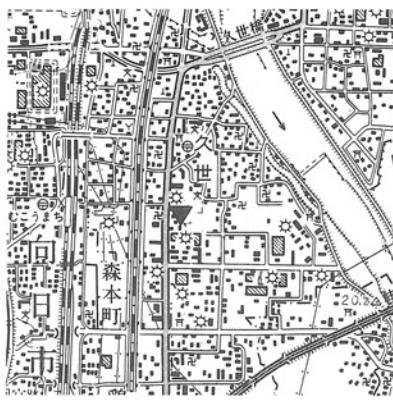
発掘機関 (財)京都市埋蔵文化財研究所

調査担当者 吉崎伸・出口勲・西大條哲

遺跡の種類 集落跡・居館跡

遺跡の年代 弥生時代後期、奈良時代末、中世（一四世紀末）～
一六世紀、近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



（京都西南部）

大藪遺跡は、京都盆地西部を南流する桂川右岸の沖積平野に位置し、標高一五m前後の微高地上に立地している。縄文時代から近世に至る複合遺跡である。
調査は、京都市の街路建設に伴うもので、検出した遺構は弥生時代後期の集落、